

平成27年度におけるJAXAの業務の実績に関する評価に対する意見(案)概要

総括

- 本審議会(JAXA部会)としては、JAXA自己評価は概ね妥当であるが、「有人宇宙活動(S評価)」については、A評価が妥当であると考ええる。

※JAXA内部評価は全32項目。S評価が2項目(有人宇宙活動、航空科学技術)、A評価が9項目(宇宙輸送、リモセン、法の支配、インフラ海外展開等)、C項目が3項目(宇宙科学・探査、内部統制、安全・信頼性)、それ以外はすべてB評価。

主な意見の概要

- 有人宇宙活動(自己評価S→審議会評価A):「高品質たんぱく質結晶生成」の産業応用等を含め成果が出るのはこれからであり具体性が乏しい。費用対効果を考慮すると、今回の成果がSをつけるほどの特に顕著な成果とは考えられない。ビジネス展開が期待できる成果が明確になった時点ではじめてSに値する成果と評価するべきと考える。現時点ではA評価が妥当である。
- 衛星リモートセンシング(A評価):箱根大涌谷等の災害時にデータ使用されるなど、国内防災機関との連携において実利用がより一層推進されつつあるほか、ネパール地震でのデータ提供など海外機関との連携も積極的に進められている。国際貢献の観点からも評価でき、今後の着実な充実が期待される。
- 宇宙輸送システム(A評価):基幹ロケットの連続打ち上げ成功、高いオンタイム打ち上げ率等が高く評価できるとともに、基幹ロケット高度化開発の成功等によりUAE火星探査機の打ち上げを受注するなど具体的な成果も出てきている。
- 宇宙科学・探査(C評価):「ひとみ」のミッション喪失を踏まえ、ISASのプロジェクト手続き等を見直しているようであるが、これは「成果の最大化に向けた抜本的な見直し」に該当すると判断され、現評価でも評価は高すぎるとも考えられる。しかしながら、「あかつき」や「はやぶさ2」等の他の宇宙科学・探査衛星で一定の成果が得られていることを総合的に勘案し、今回はC評価が妥当であると判断する(「内部統制・ガバナンスの強化」及び「安全・信頼性に関する事項」についても、同じ観点からC評価)。

法人の全体評価に関する意見の概要

- 全体を通して、「ひとみ」を除いては、研究開発や宇宙の実利用に向けた取り組みが着実に進められたと考える。研究成果をもとに新しい産業分野の開拓や宇宙分野の人材育成を行っており、中期目標・計画を上回る十分な業務実績を達成していると評価できる。一方で、短期的な利用だけではなく、将来をにらんだ研究や技術開発も含め組織のリソース配分に対し一層目配りする必要がある。

(参考)平成27年度JAXAの業務実績評価の自己評価一覧

評価項目	再掲	JAXA 自己評価
I. 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置		
1. 宇宙安全保障の確保		
(1) 衛星測位	○	B
(2) 衛星リモートセンシング	○	B
(3) 衛星通信・衛星放送	○	B
(4) 宇宙輸送システム	○	A
(5) その他の取組	○	B
2. 民生分野における宇宙利用の推進		
(1) 衛星測位	○	B
(2) 衛星リモートセンシング	○	A
(3) 衛星通信・衛星放送	○	B
(4) その他の取組	○	B
3. 宇宙産業及び科学技術の基盤の維持・強化		
(1) 宇宙輸送システム	○	A
(2) 宇宙科学・探査		C
(3) 有人宇宙活動※審議会としてAを妥当と考える		S
(4) 宇宙太陽光発電		B
(5) 個別プロジェクトを支える産業基盤・科学技術基盤の強化策		B
4. 航空科学技術 (文科省専管のため総務省では評価しない)		S

評価項目	再掲	JAXA 自己評価
5. 横断的事項		
(1) 利用拡大のための総合的な取組		B
(2) 調査分析・戦略立案機能の強化		B
(3) 基盤的な施設・設備の整備		B
(4) 国内の人的基盤の総合的強化、国民的理解の増進		A
(5) 宇宙空間における法の支配の実現・強化		A
(6) 国際宇宙協力の強化		A
(7) 相手国ニーズに応えるインフラ海外展開の推進		A
(8) 情報開示・広報		A
(9) 事業評価の実施		B
II. 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置		
1 内部統制・ガバナンスの強化		C
2 柔軟かつ効率的な組織運営		B
3 業務の合理化・効率化		B
4 情報技術の活用		B
III.-VII. 財務内容の改善に関する事項予算		B
VIII. その他主務省令で定める業務運営に関する事項		
1 施設・設備に関する事項		B
2 人事に関する計画		A
3 安全・信頼性に関する事項		C